

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372700456		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	恵寿荘認知症対応型共同生活介護事業所 1階		
所在地	津島市唐臼町四反田25番地		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	平成29年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2372700456-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様との繋がりをもち、慣れ親しんだ地域で関わりが続けられる様に、外出・外食等で気軽に馴染みの店へ出かけるなど利用者様の思いを考えながら生活支援に取り組んでいる。ホーム周辺は田んぼなどがあり季節の移り変わりを感じられるので散歩を取り入れ、敷地内では作物を育て収穫を行うなどしている。同じグループ内には多種の事業所があり多方面で協力が得られ、医療連携体制も整っている。またボランティア・実習生の受け入れや、認知症カフェへの参加などにより随時介護相談を行い地域社会へ貢献できる様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の関連でもある医療機関の近隣に開設されていることで、利用者の体調変化に合わせた受診支援等、医療面での柔軟な支援が可能な体制がとられている。関連の医療機関とは喫茶コーナーを通じた、利用者の外出支援にもつながっている。ホームには、他にも関連の特養の近隣に開設されていることもあり、特養との合同の行事が行われている。夏祭りをはじめとする合同の行事の際には、多くの家族や地域の方の参加が得られており、交流の機会につながっている。日常生活については、ホーム内がゆったりとした空間が確保されていることで、職員間で利用者への支援内容を検討しながら、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、特養の施設長による職員面談が実施される等、新たな取り組みも行われており、ホームの運営への反映に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居される前と変わらず地元との関わりがもてる様に入居者の要望を汲み取り、日々のミーティングで要望を共有し、実現できる様にしている。	ホーム独自の理念をつくっており、利用者(ファミリー)が望む生活の実現を目指した内容を職員の支援の基本として掲げている。理念を各ユニットの入り口に掲示しており、職員が日常的に目に入るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居前の対人関係が継続できる様に、事前にお伺いし、気軽な訪問環境を提要したり、スーパーなど今まで通っていたお店を継続して利用できる様に心がけています。	地域の方との交流については、ホーム向いにある特養を通じて行われており、合同での盆踊りの開催等の取り組みも行われている。ホームでも独自の交流が行われており、ボランティアの方の訪問が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェなどに参加させていただき、発言させていただいているのみです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、現状と課題を報告し、そこで得られるスタッフからの意見を運営に反映できる様にしている。	会議の際には、ホームでの様子を写真で見てもらいながら、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議には複数の家族の参加が得られており、家族との交流や意見交換の機会にもつながっている。	会議について、出席者が固定的になっている現状がある。多くの方の理解を深めてもらい為にも、ホームからの継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用されている方の要介護認定更新手続きの際や運営推進会議にて報告への助言をいただき、利用状況など包括支援センターとの連携も行っている。	運営推進会議に市職員が出席していることもあり、定期的な情報交換にもつながっている。地域包括支援センターとも、利用者の受け入れ相談や、市の介護相談員の訪問があり、情報交換の機会につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	切迫性、非代替性、一時性の3つの要件を満たす以外では拘束を行わない様に心がけている。	ホーム内は広い空間であるが、出入り口には施錠を行わずに、職員間での見守りが行われている。また、身体拘束に関する基本指針を休憩室に掲示しており、職員が日常的に意識する取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待事件について内面性を会議で話し合い、ソフト、ハード、両面できかに安心して対応していくか取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用される方もいる為、ホーム全体で知る必要がありスタッフへの情報共有や話ができる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約日や面会に来られた際に説明させていただき、書面での掲示もさせていただくと共に、不明な点があれば連絡をいただくか再度面会に来られた際、説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方からは面会時や家族会、及び行事への参加の際に意見や要望をお聞きし、利用者の方は日頃から職員へ要望が伝えやすい様により良い関係を築き、情報を共有すると共に実現できる様に取り組んでいる。	年2回の行事の際には、多くの家族の参加が得られており、家族との交流が行われている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも特養の施設長も対応する体制がとられている。また、年4回の便りの作成が行われている。	現状、家族への便りの作成が年4回となっているが、今後に向け、職員間での検討を深めながら、家族への情報発信の機会を増やしていく取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	緊急で決定する事以外はミーティングや会議にて情報や意見交換ができる様に、全員に発言機会を設け考えられる環境を作っている。	日常的に申し送りの時間を活用したミーティングが行われており、職員間で意見交換を行いながら、ホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、特養の施設長による個別面談の機会がとられており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働基準法に沿った就業規則があり、法人全体で永年勤続の表彰を行っているほか、職員の資格取得に向けた取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外で行われる研修会に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者交流会への参加や施設訪問、他施設との合同勉強会への参加によりサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前にグループホームを見学して頂くと共に、ご本人とお話するほか、利用が始まってからは日常の会話以外に談話できる時間を作り、馴染の関係が作れる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前にグループホームを見学して頂くと共に、ご家族様のお話しをお聞きし、利用が始まった後も面会時などで意向を伺う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の意向や現状の把握は、担当の介護支援専門員の協力をおおぎながら適切なサービスを検討し、サービスを導入する際は必要な支援を見極めケアプランを作成する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1日を通して食事の準備や洗濯など、一人一人の力に応じた作業を一緒に行う事で関係を築ける様にし、作物の育て方や料理では工夫を教えて頂くなどし、共同生活の一員として日常生活に関わりがもてる様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状態変化や出来事をご家族様に面会時や電話で連絡を取り、報告している。またホーム内での行事等に家族の方にも参加して頂く事で、一緒に過ごす機会を設け、共に本人を支える関係を築く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前の生活で利用していたスーパーや理美容等の利用を継続できるように家族の方にも協力頂き、馴染の人と顔を合わせる場所にはできる限り出向ける様に支援している。	利用者により、行きつけの喫茶店等、入居前からの関係の方との交流を継続している方がいる。また、家族との外出の機会もつづられており、食事や買い物を通じた外出の他にも、自宅への外泊をしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の性格や感情の変化を理解し、テーブルの配置など工夫し調和を図り、職員が間に入り交流できる機会を作る事で支え合える関係が送れる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居の場合は生活の継続ができる様に情報提供している。家族に関してはサービス終了後も御役に立てる事があれば対応する様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で思いを伝えられる方は聴いた職員がプレミーティングノートに記載し職員全員が把握に努めている。伝えられない方はこれまでの生活史やこだわりから職員で推測し把握に努めている。	職員間で共有するノートも活用しながら、利用者に関する気付き等を出すことで意向等の把握につなげている。日中の時間を活用した職員間での意見交換も行われており、把握した情報は定期的の実施しているケアチェック表にて確認を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	施設利用時、家族と本人に伺い、職員が閲覧できるようになっている。入居後に知りえた情報はプレミーティングノートに記載し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体能力に関しては、入浴、食事、排泄の面から見極めて検討しあい、統一したケアができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	生活状況や健康状態、本人や家族の要望をプレミーティングノートを集約し、それを元にミーティングを行い、解決すべき課題は盛り込む様にしている。	介護計画の見直しは6か月で行われており、変化に合わせた見直し等、家族との話し合いの時間もつられている。また、毎日のケアプランチェック表に記録を残しながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録物を元に行うミーティングは毎朝行い、記録されている事柄をさらに共有し深める事でケアの決め打ちにならない様にし、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	画一されたサービスの提供ではなく、利用者に合わせていく方針のもと、その人らしさが保てる様にサービスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	あらゆる社会資源(ボランティア)の利用や家族に協力をお願いしたりして生活の質の向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後もかかりつけ医を希望されれば、受診を継続していただく様に支援している。	法人関連の医療機関への月1回の受診支援が行われており、夜間、休日の際にも柔軟な対応が行われている。また、ホームに看護職員が勤務しており、利用者の日常的な健康チェックや関連の医療機関との情報交換等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の体調変化は看護師へ報告、又は協力医療機関へ連絡し指示を仰いだり診察が受けられるよう体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関には月に1回の定期受診時に、生活状況などできるだけ詳しく伝えている。入院時も現状の情報を提供すると共に、必要な情報があれば常時伝える関係ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に意向をお伺いし、終末期の支援が必要になった時点で再度意向を確認する様にしている。	現状、ホームでの看取り支援を想定しておらず、利用者の身体状態に合わせた家族との話し合いを行いながら、関連の医療機関や特養等への移行支援が行われている。法人の研修会には出席するように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命救急の研修に参加できる機会を設定したり、緊急対応マニュアルの確認ができる様に休憩室へ設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練は行っており、災害時には同法人内並びに地域との協力体制を築いてきている。	年2回行われているホームの避難訓練の他にも、関連の特養と連携した総合防災訓練も行われている。特養が地域の避難場所でもあるため、地域の方との関係づくりも行われている。また、備蓄品については、特養での管理となっている。	総合防災訓練として、関連事業所とも連携した取り組みが行われており、定例化していきたい考えでもある。現状の夜間体制に関する検討も含め、ホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いに注意を払い、入浴や排泄の際の言葉かけでは自尊心に配慮した言葉使いに努めている。	理念の内容を実践する取り組みや職員が守るべき規程集の共有等、職員が利用者への対応を意識するような働きかけが行われている。また、接遇面に関する職員研修の機会がとられており、日常的な職員への注意喚起の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お菓子販売や外出の際好きな物を選ぶ計画を立て、自己決定できる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れの中で食事時間や入浴の日程などその日の状態に応じて個々の希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前に使用していた、こだわりの日用品など使用できる様に支援したり、行きつけのお店があればお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みや咀嚼状況、体調に応じた食事を提供している。食事作りや下膳、配膳、食器洗いは能力に合わせて役割作りをしている。	食材業者のメニューに基づき、職員により調理されているが、利用者もできることに参加した取り組みが行われている。身体状態に合わせたミキサーやトロミ等の配慮も行われている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の摂取量を毎食記録し、調理法など工夫する事で最適な食事を提供できる様になっている。また、病気の為に制限など意に沿わない時は、代替えの物を提供している。ストレスにならない様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立した方には声かけし行っていただき、そうでない方は介助している。また個別に舌ブラシを使用するなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握できる様に排泄チェック表を作成し利用者様個々に合った誘導や声かけを行い、トイレで排泄できる様に支援している。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的な申し送りで職員間で情報を共有しながら、トイレでの声かけ等の支援につなげている。また、看護職員が勤務していることで、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩やラジオ体操など適度な運動を行い生活リズムの改善や、排泄表では排便状況を把握し必要な方には個別で水分チェック表を作成し、しっかり水分補給をして頂ける様に工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	本人の希望に添う様に入浴時間や回数に配慮したり、季節によって柚子湯や菖蒲湯など楽しめる様にしている。	入浴は週2～3回となっているが、利用者によりそれ以上の回数の入浴も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみが行われている他、外出行事として足湯を楽しむ取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床時間や就寝時間は本人のペースに合わせて、季節によって加湿器や湯たんぽの使用を個々に行うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋にて内容の把握に努め、バイタル測定を毎日行い異常時や日頃の様子が変わる場合は看護師に相談を行い、必要時には受診できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中で負担にならない程度に洗濯たたみや食事作りや片づけなどを行って頂いたり、歌や塗り絵、散歩等、楽しみごとを持てる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	なるべく希望のある方は外出できる様に努め施設周辺の散歩なども気分転換できる様に取り入れている。また、家族の協力のもと、楽しみのある生活が送れる様に外出支援を行っている。	関連の医療機関に喫茶コーナーがあることで、利用者の外出先にもなっている。季節に合わせた外出行事が行われており、公園等への外出が行われている。また、利用者の希望に合わせた、喫茶店のモーニングに出かける取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時は個別の財布を用意したり、自己管理されている方もみえるので、なるべく自分で支払う様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居前と変わらない人間関係ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには季節感のある飾り物や花を飾っている。また、換気や加湿を行い快適に過ごせる様に配慮している。	ホーム内は広い空間が確保されていることで、利用者は日常生活をゆったりと過ごすことができる。庭には花壇が設けられており、利用者の楽しみにもつながっている。また、リビング内に利用者の作品の掲示を行う等、雰囲気づくりにも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファやテーブルを設置し、自然に寄り添える空間を提供している。また、食堂では好みの番組を見て楽しんだり、気分に合わせて選択しができる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、使い慣れた物やお気に入りの物を持ってきていただく様にお伝えしている。また、入居後も要望があればご家族様にお伝えし、搬入している。	利用者により、様々な趣味の物や身のまわりの物を持ち込んでいる方が生活している一方で、シンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。利用者により敷物を敷く等、希望に合わせた取り組みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に合わせて生活しやすい空間に配慮し場所がわかりやす様に貼り紙を行うなどしている。		